



Red Hat OpenShift Data Foundation 4.9

VMware vSphere上でのOpenShift Data Foundationのデプロイ

VMware vSphere インフラストラクチャーを使用した OpenShift Data Foundation の
デプロイ手順

Red Hat OpenShift Data Foundation 4.9 VMware vSphere上での OpenShift Data Foundationのデプロイ

VMware vSphere インフラストラクチャーを使用した OpenShift Data Foundation のデプロイ手順

Enter your first name here. Enter your surname here.

Enter your organisation's name here. Enter your organisational division here.

Enter your email address here.

法律上の通知

Copyright © 2022 | You need to change the HOLDER entity in the en-US/Deploying_OpenShift_Data_Foundation_on_VMware_vSphere.ent file |.

The text of and illustrations in this document are licensed by Red Hat under a Creative Commons Attribution–Share Alike 3.0 Unported license ("CC-BY-SA"). An explanation of CC-BY-SA is available at

<http://creativecommons.org/licenses/by-sa/3.0/>

. In accordance with CC-BY-SA, if you distribute this document or an adaptation of it, you must provide the URL for the original version.

Red Hat, as the licensor of this document, waives the right to enforce, and agrees not to assert, Section 4d of CC-BY-SA to the fullest extent permitted by applicable law.

Red Hat, Red Hat Enterprise Linux, the Shadowman logo, the Red Hat logo, JBoss, OpenShift, Fedora, the Infinity logo, and RHCE are trademarks of Red Hat, Inc., registered in the United States and other countries.

Linux[®] is the registered trademark of Linus Torvalds in the United States and other countries.

Java[®] is a registered trademark of Oracle and/or its affiliates.

XFS[®] is a trademark of Silicon Graphics International Corp. or its subsidiaries in the United States and/or other countries.

MySQL[®] is a registered trademark of MySQL AB in the United States, the European Union and other countries.

Node.js[®] is an official trademark of Joyent. Red Hat is not formally related to or endorsed by the official Joyent Node.js open source or commercial project.

The OpenStack[®] Word Mark and OpenStack logo are either registered trademarks/service marks or trademarks/service marks of the OpenStack Foundation, in the United States and other countries and are used with the OpenStack Foundation's permission. We are not affiliated with, endorsed or sponsored by the OpenStack Foundation, or the OpenStack community.

All other trademarks are the property of their respective owners.

概要

VMware vSphere クラスタで Red Hat OpenShift Container Platform を使用して Red Hat OpenShift Data Foundation をインストールする方法については、本書をお読みください。

目次

多様性を受け入れるオープンソースの強化	3
RED HAT ドキュメントへのフィードバック (英語のみ)	4
前書き	5
第1章 OPENSIFT DATA FOUNDATION のデプロイの準備	6
1.1. RED HAT ENTERPRISE LINUX ベースのノードでのコンテナのファイルシステムアクセスの有効化	6
1.2. VAULT でのキー値のバックエンドパスおよびポリシーの有効化	7
1.3. ローカルストレージデバイスを使用して OPENSIFT DATA FOUNDATION をインストールするための要件	8
第2章 動的ストレージデバイスを使用したデプロイ	10
2.1. RED HAT OPENSIFT DATA FOUNDATION OPERATOR のインストール	10
2.2. MULTUS ネットワークの作成 [テクノロジープレビュー]	12
2.2.1. ネットワーク接続定義の作成	12
2.3. OPENSIFT DATA FOUNDATION クラスターの作成	14
第3章 ローカルストレージデバイスを使用したデプロイ	17
3.1. ローカルストレージ OPERATOR のインストール	17
3.2. RED HAT OPENSIFT DATA FOUNDATION OPERATOR のインストール	18
3.3. MULTUS ネットワークの作成 [テクノロジープレビュー]	20
3.3.1. ネットワーク接続定義の作成	21
3.4. VMWARE VSPHERE での OPENSIFT DATA FOUNDATION クラスターの作成	23
第4章 OPENSIFT DATA FOUNDATION デプロイメントの確認	30
4.1. POD の状態の確認	30
4.2. OPENSIFT DATA FOUNDATION クラスターの正常性の確認	32
4.3. MULTICLOUD OBJECT GATEWAY が正常であることの確認	32
4.4. OPENSIFT DATA FOUNDATION 固有のストレージクラスが存在することの確認	33
4.5. MULTUS ネットワークの確認	33
第5章 スタンドアロンの MULTICLOUD OBJECT GATEWAY のデプロイ	37
5.1. 動的ストレージデバイスを使用したスタンドアロン MULTICLOUD OBJECT GATEWAY のデプロイ	37
5.1.1. Red Hat OpenShift Data Foundation Operator のインストール	37
5.1.2. スタンドアロンの Multicloud Object Gateway の作成	40
5.2. ローカルストレージデバイスを使用したスタンドアロン MULTICLOUD OBJECT GATEWAY のデプロイ	43
5.2.1. ローカルストレージ Operator のインストール	43
5.2.2. Red Hat OpenShift Data Foundation Operator のインストール	44
5.2.3. スタンドアロンの Multicloud Object Gateway の作成	47
第6章 OPENSIFT DATA FOUNDATION のアンインストール	51
6.1. 内部モードでの OPENSIFT DATA FOUNDATION のアンインストール	51

多様性を受け入れるオープンソースの強化

Red Hat では、コード、ドキュメント、Web プロパティにおける配慮に欠ける用語の置き換えに取り組んでいます。まずは、マスター (master)、スレーブ (slave)、ブラックリスト (blacklist)、ホワイトリスト (whitelist) の 4 つの用語の置き換えから始めます。この取り組みは膨大な作業を要するため、今後の複数のリリースで段階的に用語の置き換えを実施して参ります。詳細は、[弊社](#)の CTO、Chris Wright の[メッセージ](#)を参照してください。

RED HAT ドキュメントへのフィードバック (英語のみ)

弊社のドキュメントについてのご意見をお聞かせください。ドキュメントの改善点があれば、ぜひお知らせください。フィードバックをお寄せいただくには、以下をご確認ください。

- 特定の部分についての簡単なコメントをお寄せいただく場合は、以下をご確認ください。
 1. ドキュメントの表示が **Multi-page HTML** 形式になっていて、ドキュメントの右上端に **Feedback** ボタンがあることを確認してください。
 2. マウスカーソルで、コメントを追加する部分を強調表示します。
 3. そのテキストの下に表示される **Add Feedback** ポップアップをクリックします。
 4. 表示される手順に従ってください。
- より詳細なフィードバックを行う場合は、Bugzilla のチケットを作成します。
 1. [Bugzilla](#) の Web サイトに移動します。
 2. **Component** セクションで、**documentation** を選択します。
 3. **Description** フィールドに、ドキュメントの改善に関するご意見を記入してください。ドキュメントの該当部分へのリンクも記入してください。
 4. **Submit Bug** をクリックします。

前書き

Red Hat OpenShift Data Foundation 4.9 は、接続環境または非接続環境での既存の Red Hat OpenShift Container Platform (RHOCP) vSphere クラスターへのデプロイメントをサポートし、プロキシ環境に対する追加設定なしのサポートを提供します。



注記

VMware vSphere では、内部と外部の両方の OpenShift Data Foundation クラスターがサポートされます。デプロイメントの要件 [についての詳細は、『デプロイメントのプランニング』](#) および「[OpenShift Data Foundation のデプロイの準備](#)」を参照してください。

OpenShift Data Foundation をデプロイするには、[OpenShift Data Foundation のデプロイの準備](#) の章の要件から始めて、環境についての以下のデプロイメントプロセスのいずれかに従ってください。

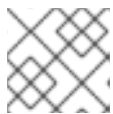
- 内部モード
 - [動的ストレージデバイスを使用したデプロイ](#)
 - [ローカルストレージデバイスを使用したデプロイ](#)
 - [スタンドアロンの Multicloud Object Gateway コンポーネントのデプロイ](#)
- 外部モード

第1章 OPENSIFT DATA FOUNDATION のデプロイの準備

動的またはローカルストレージデバイスを使用して OpenShift Data Foundation を OpenShift Container Platform にデプロイすると、内部クラスターリソースを作成するオプションが提供されます。これにより、ベースサービスの内部プロビジョニングが可能になり、追加のストレージクラスをアプリケーションで使用可能にすることができます。

動的またはローカルストレージを使用して Red Hat OpenShift Data Foundation のデプロイメントを開始する前に、リソース要件を満たしていることを確認してください。『[デプロイメントのプランニング](#)』を参照してください。

1. ユーザーによってプロビジョニングされるインフラストラクチャー(UPI)のワーカーノード向け Red Hat Enterprise Linux ベースのホストについては、基礎となるファイルシステムへのコンテナへのアクセスを有効にします。[Red Hat Enterprise Linux ベースのノードでのコンテナのファイルシステムのアクセスを有効にする方法](#)についての手順に従ってください。



注記

Red Hat Enterprise Linux CoreOS(RHCOS)の場合は、この手順を省略します。

2. オプション：外部鍵管理システム(KMS)を使用してクラスター全体の暗号化を有効にするには、以下を実行します。
 - トークンのあるポリシーが存在し、Vault のキー値のバックエンドパスが有効にされていることを確認します。[Vault でのキー値のバックエンドパスおよびポリシーの有効化](#)について参照してください。
 - Vault サーバーで署名済みの証明書を使用していることを確認します。
3. ノードの最小要件 [テクノロジープレビュー]

OpenShift Data Foundation クラスターは、標準のデプロイメントリソース要件を満たしていない場合に、最小の設定でデプロイされます。『[プランニングガイド](#)』の「[リソース要件](#)」のセクションを参照してください。
4. Regional-DR 要件 [開発者プレビュー]

Red Hat OpenShift Data Foundation でサポートされる障害復旧機能では、障害復旧ソリューションを正常に実装するために以下の前提条件がすべて必要になります。

 - 有効な Red Hat OpenShift Data Foundation Advanced サブスクリプション
 - 有効な Red Hat Advanced Cluster Management for Kubernetes サブスクリプション
詳細な要件は、[Regional-DR requirements](#) および [RHACM requirements](#) を参照してください。
5. ローカルストレージデバイスを使用したデプロイについては、[ローカルストレージデバイスを使用して OpenShift Data Foundation をインストールするための要件](#)を確認します。これらは、動的ストレージデバイスを使用するデプロイメントには該当しません。

1.1. RED HAT ENTERPRISE LINUX ベースのノードでのコンテナのファイルシステムアクセスの有効化

ユーザーによってプロビジョニングされるインフラストラクチャー (UPI) で Red Hat Enterprise Linux がベースの OpenShift Data Foundation にワーカーノードを含めて OpenShift Container Storage をデプロイしても自動的に、基盤の Ceph ファイルシステムへのコンテナアクセスが提供されるわけではありません。



注記

Red Hat Enterprise Linux CoreOS(RHCOS)をベースとするホストの場合は、この手順を省略します。

手順

1. Red Hat Enterprise Linux ベースのノードにログインし、ターミナルを開きます。
2. クラスタ内の各ノードについて、以下を実行します。
 - a. ノードが `rhel-7-server-extras-rpms` リポジトリにアクセスできることを確認します。

```
# subscription-manager repos --list-enabled | grep rhel-7-server
```

出力に **rhel-7-server-rpms** と **rhel-7-server-extras-rpms** の両方が表示されない場合は、以下のコマンドを実行して各リポジトリを有効にします。

```
# subscription-manager repos --enable=rhel-7-server-rpms
```

```
# subscription-manager repos --enable=rhel-7-server-extras-rpms
```

- b. 必要なパッケージをインストールします。

```
# yum install -y policycoreutils container-selinux
```

- c. SELinux での Ceph ファイルシステムのコンテナの使用を永続的に有効にします。

```
# setsebool -P container_use_cephfs on
```

1.2. VAULT でのキー値のバックエンドパスおよびポリシーの有効化

前提条件

- Vault への管理者アクセス。
- 注: 後に変更することはできないため、命名規則に基づいてバックエンド **path** として一意のパス名を選択します。

手順

1. Vault で Key/Value (KV) バックエンドパスを有効にします。
Vault KV シークレットエンジン API の場合は、バージョン 1 を使用します。

```
$ vault secrets enable -path=odf kv
```

Vault KV シークレットエンジン API の場合は、バージョン 2 です。

```
$ vault secrets enable -path=odf kv-v2
```

2. 以下のコマンドを使用して、シークレットでの書き込み操作または削除操作の実行をユーザーを制限するポリシーを作成します。

```

echo '
path "odf/*" {
  capabilities = ["create", "read", "update", "delete", "list"]
}
path "sys/mounts" {
  capabilities = ["read"]
}
}' | vault policy write odf -

```

- 上記のポリシーに一致するトークンを作成します。

```
$ vault token create -policy=odf -format json
```

1.3. ローカルストレージデバイスを使用して OPENSIFT DATA FOUNDATION をインストールするための要件

ノードの要件

クラスターは、それぞれローカルに接続されたストレージデバイスを持つ3つ以上の OpenShift Container Platform ワーカーノードで構成される必要があります。

- 選択した3つのノードには、OpenShift Data Foundation で使用できる raw ブロックデバイスが少なくとも1つ必要です。
- 使用するデバイスは空である必要があります。ディスクには物理ボリューム (PV)、ボリュームグループ (VG)、または論理ボリューム (LV) を含めないでください。

詳細は、プランニングガイドの [リソース要件](#) のセクションを参照してください。

Regional-DR 要件 [開発者プレビュー]

Red Hat OpenShift Data Foundation でサポートされる障害復旧機能では、障害復旧ソリューションを正常に実装するために以下の前提条件がすべて必要になります。

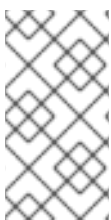
- 有効な Red Hat OpenShift Data Foundation Advanced サブスクリプション
- 有効な Red Hat Advanced Cluster Management for Kubernetes サブスクリプション

詳細な要件は、[Regional-DR requirements](#) および [RHACM requirements](#) を参照してください。

Arbiter ストレッチクラスターの要件 [テクノロジープレビュー]

この例では、3番目のゾーンを Arbiter の場所とした上で、単一クラスターが2つのゾーンに展開されます。これはテクノロジープレビュー機能であり、現時点では OpenShift Container Platform オンプレミスでのデプロイメント用とされています。

詳細な要件および手順は、[Configuring OpenShift Data Foundation for Metro-DR stretch cluster](#) を参照してください。



注記

柔軟なスケーリングおよび Arbiter はどちらもスケーリングロジックの競合がある場合も同時に有効にすることはできません。Flexible scaling を使用すると、1度に1つのノードを OpenShift Data Foundation クラスターに追加することができます。Arbiter クラスターでは、2つのデータゾーンごとに1つ以上のノードを追加する必要があります。

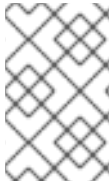
ノードの最小要件 [テクノロジープレビュー]

OpenShift Data Foundation クラスターは、標準のデプロイメントリソース要件を満たしていない場合に、最小の設定でデプロイされます。

詳細は、プランニングガイドの[リソース要件](#)のセクションを参照してください。

第2章 動的ストレージデバイスを使用したデプロイ

VMware vSphere (ディスク形式: thin) で提供される動的ストレージデバイスを使用して OpenShift Data Foundation を OpenShift Container Platform にデプロイすると、内部クラスターリソースを作成するオプションが提供されます。これにより、ベースサービスの内部プロビジョニングが可能になり、追加のストレージクラスをアプリケーションで使用可能にすることができます。



注記

VMware vSphere では、内部と外部の両方の OpenShift Data Foundation クラスターがサポートされます。デプロイメントの要件についての詳細は、『[デプロイメントのプランニング](#)』を参照してください。

また、[OpenShift Data Foundation のデプロイの準備](#)についての章にある要件に対応していることを確認してから、動的ストレージデバイスを使用したデプロイについて以下の手順を実行してください。

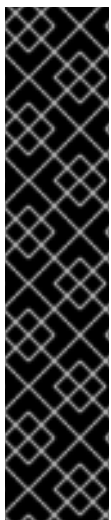
1. [Red Hat OpenShift Data Foundation Operator のインストール](#)。
2. [OpenShift Data Foundation クラスターの作成](#)

2.1. RED HAT OPENSIFT DATA FOUNDATION OPERATOR のインストール

Red Hat OpenShift Data Foundation Operator は、Red Hat OpenShift Container Platform Operator Hub を使用してインストールできます。

前提条件

- **cluster-admin** および Operator インストールのパーミッションを持つアカウントを使用して OpenShift Container Platform クラスターにアクセスできる。
- Red Hat OpenShift Container Platform クラスターにワーカーノードが少なくとも 3 つある。
- その他のリソース要件については、『[デプロイメントのプランニング](#)』ガイドを参照してください。



重要

- OpenShift Data Foundation のクラスター全体でのデフォルトノードセレクターを上書きする必要がある場合は、コマンドラインインターフェースで以下のコマンドを使用し、**openshift-storage** namespace の空のノードセレクターを指定できます (この場合、openshift-storage namespace を作成します)。

```
$ oc annotate namespace openshift-storage openshift.io/node-selector=
```

- ノードに Red Hat OpenShift Data Foundation リソースのみがスケジュールされるように **infra** のテイントを設定します。これにより、サブスクリプションコストを節約できます。詳細は、[ストレージリソースの管理および割り当てガイド](#)の [How to use dedicated worker nodes for Red Hat OpenShift Data Foundation](#) の章を参照してください。

手順

1. OpenShift Web コンソールにログインします。
2. **Operators** → **OperatorHub** をクリックします。
3. スクロールするか、または **OpenShift Data Foundation** を **Filter by keyword** ボックスに入力し、**OpenShift Data Foundation Operator** を検索します。
4. **Install** をクリックします。
5. **Install Operator** ページで、以下のオプションを設定します。
 - a. Channel を **stable-4.9** として更新します。
 - b. Installation Mode オプションに **A specific namespace on the cluster** を選択します。
 - c. Installed Namespace に **Operator recommended namespace openshift-storage** を選択し
ます。namespace **openshift-storage** が存在しない場合、これは Operator のインストール
時に作成されます。
 - d. 承認ストラテジー を **Automatic** または **Manual** として選択します。
Automatic (自動) 更新を選択した場合、Operator Lifecycle Manager (OLM) は介入なし
に、Operator の実行中のインスタンスを自動的にアップグレードします。

Manual 更新を選択した場合、OLM は更新要求を作成します。クラスター管理者は、
Operator を新しいバージョンに更新できるように更新要求を手動で承認する必要があります。
 - e. **Console プラグイン** に **Enable** オプションが選択されていることを確認します。
 - f. **Install** をクリックします。



注記

すべてのデフォルト設定を使用することが推奨されます。これを変更すると、予期しない動作が発生する可能性があります。変更後にどうなるのかを認識している場合に限り変更します。

検証手順

- **OpenShift Data Foundation Operator** に、インストールが正常に実行されたことを示す緑色のチェックマークが表示されていることを確認します。
- Operator が正常にインストールされると、**Web console update is available** メッセージを含むポップアップがユーザーインターフェースに表示されます。このポップアップから **Web コンソールのリフレッシュ** をクリックして、反映するコンソールを変更します。
 - Web コンソールで、**Operators** に移動し、**OpenShift Data Foundation** が利用可能かどうかを確認します。



重要

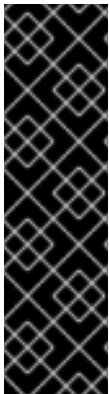
OpenShift Data Foundation Operator のインストール後に console プラグインオプションが自動的に有効にされていない場合は、これを有効にする必要があります。

console プラグインを有効にする方法の詳細は、「[Red Hat OpenShift Data Foundation console プラグインの有効化](#)」を参照してください。

2.2. MULTUS ネットワークの作成 [テクノロジープレビュー]

OpenShift Container Platform は、Multus CNI プラグインを使用して CNI プラグインのチェーンを許可します。クラスターのインストール時に、デフォルトの Pod ネットワークを設定できます。デフォルトのネットワークは、クラスターのすべての通常のネットワークトラフィックを処理します。利用可能な CNI プラグインに基づいて追加のネットワークを定義し、1つまたは複数のネットワークを Pod に割り当てることができます。追加のネットワークを Pod に割り当てするには、インターフェースの割り当て方法を定義する設定を作成する必要があります。それぞれのインターフェースは、NetworkAttachmentDefinition カスタムリソース (CR) を使用して指定します。それぞれの NetworkAttachmentDefinition 内の CNI 設定は、インターフェースの作成方法を定義します。

OpenShift Data Foundation は、macvlan と呼ばれる CNI プラグインを使用します。macvlan ベースの追加ネットワークを作成することで、ホスト上の Pod が物理ネットワークインターフェースを使用して他のホストやそれらのホストの Pod と通信できます。macvlan ベースの追加ネットワークに割り当てられる各 Pod には固有の MAC アドレスが割り当てられます。



重要

Multus のサポートはテクノロジープレビュー機能としてのみサポートされ、ベアメタルおよび VMWare デプロイメントでテストされます。テクノロジープレビュー機能は Red Hat の実稼働環境でのサービスレベルアグリーメント (SLA) ではサポートされていないため、Red Hat では実稼働環境での使用を推奨していません。Red Hat は実稼働環境でこれらを使用することを推奨していません。これらの機能は、近々発表予定の製品機能をリリースに先駆けてご提供することにより、お客様は機能性をテストし、開発プロセス中にフィードバックをお寄せいただくことができます。

詳細は、「[テクノロジープレビュー機能のサポート範囲](#)」を参照してください。

2.2.1. ネットワーク接続定義の作成

Multus を使用するには、正しいネットワーク設定ですでに機能するクラスターが必要です。[Recommended network configuration and requirements for a Multus configuration](#) を参照してください。新規に作成された NetworkAttachmentDefinition (NAD) は、Storage Cluster のインストール時に選択できます。これは、Storage Cluster の前に作成する必要のある理由です。

『Planning Guide』で説明されているように、作成する Multus ネットワークは、OpenShift Data Foundation トラフィックで利用可能なネットワークインターフェースの数によって異なります。すべてのストレージトラフィックを2つのインターフェース (デフォルトの OpenShift SDN に使用されるインターフェース1つ) に分割するか、ストレージストレージトラフィック (パブリック) およびストレージレプリケーショントラフィック (プライベートまたはクラスター) にさらに分割することもできます。

以下は、同じインターフェース上のすべてのストレージトラフィック (パブリックおよびクラスター) の **NetworkAttachmentDefinition** の例です。すべてのスケジュール可能なノードに1つの追加インターフェースが必要になります (OpenShift のデフォルト: 個別のネットワークインターフェース上の OpenShift のデフォルト)。

```
apiVersion: "k8s.cni.cncf.io/v1"
kind: NetworkAttachmentDefinition
metadata:
  name: ocs-public-cluster
  namespace: openshift-storage
spec:
  config: '{
    "cniVersion": "0.3.1",
    "type": "macvlan",
```



```
"master": "ens2",
"mode": "bridge",
"ipam": {
  "type": "whereabouts",
  "range": "192.168.1.0/24"
}
}'
```



注記

すべてのネットワークインターフェース名は、Multus ネットワークに接続されているすべてのノードで同じである必要があります (例: **ocs-public-cluster** の場合は **ens2**)。

以下は、個別の Multus ネットワーク上のストレージトラフィックの **NetworkAttachmentDefinition** の例になります。これは、クライアントストレージトラフィックのパブリックおよびレプリケーショントラフィック用のクラスターです。OSD Pod をホストする OpenShift ノードに2つの追加インターフェースと、他のスケジュール可能なすべてのノードで1つの追加インターフェース (OpenShift デフォルト SDN) が必要です。

```
apiVersion: "k8s.cni.cncf.io/v1"
kind: NetworkAttachmentDefinition
metadata:
  name: ocs-public
  namespace: openshift-storage
spec:
  config: '{
    "cniVersion": "0.3.1",
    "type": "macvlan",
    "master": "ens2",
    "mode": "bridge",
    "ipam": {
      "type": "whereabouts",
      "range": "192.168.1.0/24"
    }
  }'
```

NetworkAttachmentDefinition の例:

```
apiVersion: "k8s.cni.cncf.io/v1"
kind: NetworkAttachmentDefinition
metadata:
  name: ocs-cluster
  namespace: openshift-storage
spec:
  config: '{
    "cniVersion": "0.3.1",
    "type": "macvlan",
    "master": "ens3",
    "mode": "bridge",
    "ipam": {
      "type": "whereabouts",
      "range": "192.168.2.0/24"
    }
  }'
```



注記

すべてのネットワークインターフェース名は、Multus ネットワークにアタッチされたすべてのノードで同じである必要があります (つまり、**ocs-public** の場合は **ens2**、**ocs-cluster** の場合は **ens3** です)。

2.3. OPENSIFT DATA FOUNDATION クラスターの作成

OpenShift Data Foundation Operator のインストール後に OpenShift Data Foundation クラスターを作成します。

前提条件

- OpenShift Data Foundation Operator は Operator Hub からインストールする必要があります。詳細は、[Installing OpenShift Data Foundation Operator](#) を参照してください。
- VMware の仮想マシンでは、**disk.EnableUUID** オプションが **TRUE** に設定されていることを確認してください。仮想マシンを設定するには、vCenter アカウントの権限が必要です。詳細は、「[Required vCenter account privileges](#)」を参照してください。**disk.EnableUUID** オプションを設定するには、**Customize hardware** タブの **VM Options** の **Advanced** オプションを使用します。詳細は、[Installing RHCOS and starting the OpenShift Container Platform bootstrap process](#) を参照してください。
- (オプション) 柔軟性を高めるためにシックプロビジョニングのストレージを使用する場合は、**zeroedthick** または **eagerzeroedthick** のディスク形式でストレージクラスを作成する必要があります。詳細は、「[VMware vSphere object definition](#)」を参照してください。
- multus サポートのテクノロジープレビュー機能を使用する必要がある場合には、デプロイメントの前に、後でクラスターにアタッチされるネットワーク接続定義 (NAD) を作成する必要があります。詳細は、「[マルチネットワークプラグイン\(Multus\)のサポート](#)」および「[ネットワーク接続定義の作成](#)」を参照してください。

手順

1. OpenShift Web コンソールで、**Operators** → **Installed Operators** をクリックし、インストールされた Operator を表示します。
選択された **Project** が **openshift-storage** であることを確認します。
2. **OpenShift Data Foundation Operator** をクリックした後、**Create StorageSystem** をクリックします。
3. **Backing storage** ページで、以下を選択します。
 - a. **Use an existing StorageClass** オプションを選択します。
 - b. **Storage Class** を選択します。
デフォルトでは **thin** に設定されます。シックプロビジョニングのストレージ用に、**zeroedthick** または **eagerzeroedthick** ディスクフォーマットでストレージクラスを作成した場合は、そのストレージクラスがデフォルトの **thin** ストレージクラスに加えて表示されます。
 - c. **Advanced** を展開し、**Deployment type** オプションで **Full Deployment** を選択します。
 - d. **Next** をクリックします。
4. **Capacity and nodes** ページで、必要な情報を提供します。

- a. ドロップダウンリストから **Requested Capacity** の値を選択します。デフォルトで、これは **2 TiB** に設定されます。



注記

初期ストレージ容量を選択すると、クラスターの拡張は、選択された使用可能な容量を使用してのみ実行されます（raw ストレージの3倍）。

- b. **Select Nodes** セクションで、少なくとも3つの利用可能なノードを選択します。高可用性を確保するために、ワーカーノードは3つの異なる物理ノード、ラック、障害ドメインに分散します。

vCenter の非アフィニティーを使用して OpenShift Data Foundation のラックラベルをデータセンターの物理ノードおよびラックラベルに合わせて調整し、同じ物理シャーシに2つのワーカーノードがスケジュールされないようにします。

選択したノードが集約された 30 CPU および 72 GiB の RAM の OpenShift Data Foundation クラスターの要件と一致しない場合は、最小クラスターがデプロイされます。ノードの最小要件については、『プランニング』ガイドの「[リソース要件](#)」セクションを参照してください。

- c. **Next** をクリックします。

5. 必要に応じて、**Security and network** ページで、要件に応じて以下を設定します。

- a. 暗号化を有効にするには、**Enable data encryption for block and file storage**を選択します。
- b. 暗号化レベルのいずれかまたは両方を選択します。
- **クラスター全体の暗号化**
クラスター全体を暗号化します（ブロックおよびファイル）。
 - **StorageClass の暗号化**
暗号化対応のストレージクラスを使用して、暗号化された永続ボリューム（ブロックのみ）を作成します。
- c. **Connect to an external key management service**チェックボックスを選択します。これはクラスター全体の暗号化の場合はオプションになります。
- i. **Key Management Service Provider**はデフォルトで **Vault** に設定されます。
 - ii. **Vault Service Name**、Vault サーバーのホスト **Address** ('https://<hostname または ip>')、**Port** 番号および **Token** を入力します。
 - iii. **Advanced Settings** を展開して、**Vault** 設定に基づいて追加の設定および証明書の詳細を入力します。
 - A. OpenShift Data Foundation 専用かつ特有のキー値のシークレットパスを **Backend Path** に入力します。
 - B. オプション： **TLS Server Name** および **Vault Enterprise Namespace** を入力します。
 - C. それぞれの PEM でエンコードされた証明書ファイルをアップロードし、**CA 証明書**、**クライアント証明書**、および **クライアントの秘密鍵** を提供します。

D. **保存** をクリックします。

- d. 単一のネットワークを使用する場合は **Default (SDN)** を選択し、複数のネットワークインターフェイスを使用する場合は **Custom (Multus)** ネットワークを選択します。
 - i. ドロップダウンメニューから **Public Network Interface** を選択します。
 - ii. ドロップダウンメニューから **Cluster Network Interface** を選択します。



注記

追加のネットワークインターフェイスを1つだけ使用している場合は、単一の **NetworkAttachmentDefinition** (**Public Network Interface**には **ocs-public-cluster**) を選択し、**Cluster Network Interface**は空白のままにします。

e. **Next** をクリックします。

6. **Review and create** ページで、設定の詳細を確認します。
構成設定を変更するには、**Back** をクリックします。
7. **Create StorageSystem** をクリックします。

検証手順

- インストールされたストレージクラスターの最終ステータスを確認するには、以下を実行します。
 - a. OpenShift Web コンソールで、**Installed Operators** → **OpenShift Data Foundation** → **Storage System** → **ocs-storagecluster-storagesystem** → **Resources** の順に移動します。
 - b. **StorageCluster** の **Status** が **Ready** になっており、その横に緑色のチェックマークが表示されていることを確認します。
 1. OpenShift Data Foundation のすべてのコンポーネントが正常にインストールされていることを確認するには、[Verifying your OpenShift Data Foundation deployment](#) を参照してください。
 2. マルチネットワーク (Multus) を確認するには、[Verifying the Multus networking](#) を参照してください。

関連情報

Overprovision Control アラートを有効にするには、モニタリングガイドの [アラート](#) を参照してください。

第3章 ローカルストレージデバイスを使用したデプロイ

ローカルストレージデバイスを使用して OpenShift Data Foundation を OpenShift Container Platform にデプロイすると、内部クラスターリソースを作成するオプションが提供されます。これにより、ベースサービスの内部プロビジョニングが可能になり、追加のストレージクラスをアプリケーションで使用可能にすることができます。

このセクションを使用して、OpenShift Container Platform がすでにインストールされている VMware インフラストラクチャーに OpenShift Data Foundation をインストールします。

また、[OpenShift Data Foundation のデプロイの準備](#) についての章にある要件に対応していることを確認してから、以下の手順に進んでください。

1. [ローカルストレージ Operator のインストール](#)
2. [Red Hat OpenShift Data Foundation Operator のインストール](#)。
3. [OpenShift Data Foundation クラスターの作成](#)

3.1. ローカルストレージ OPERATOR のインストール

ローカルストレージデバイスに Red Hat OpenShift Data Foundation クラスターを作成する前に、Operator Hub からローカルストレージ Operator をインストールします。

手順

1. OpenShift Web コンソールにログインします。
2. **Operators** → **OperatorHub** をクリックします。
3. **Filter by keyword** ボックスに **local storage** を入力し、Operator の一覧から **Local Storage Operator** を見つけ、これをクリックします。
4. **Install Operator** ページで、以下のオプションを設定します。
 - a. channel を ana または **stable** として更新します。
 - b. **インストールモードに A specific namespace on the cluster** を選択します。
 - c. **Installed Namespace に Operator recommended namespace openshift-local-storage** を選択します。
 - d. **承認を Automatic** として更新します。
5. **Install** をクリックします。

検証手順

- **Local Storage Operator** に、インストールが正常に実行されたことを示す緑色のチェックマークが表示されていることを確認します。

3.2. RED HAT OPENSIFT DATA FOUNDATION OPERATOR のインストール

Red Hat OpenShift Data Foundation Operator は、Red Hat OpenShift Container Platform Operator Hub を使用してインストールできます。

前提条件

- **cluster-admin** および **Operator** インストールのパーミッションを持つアカウントを使用して OpenShift Container Platform クラスタにアクセスできる。
- Red Hat OpenShift Container Platform クラスタにワーカーノードが少なくとも 3 つある。
- その他のリソース要件については、『[デプロイメントのプランニング](#)』ガイドを参照してください。

重要

- OpenShift Data Foundation のクラスタ全体でのデフォルトノードセレクターを上書きする必要がある場合は、コマンドラインインターフェースで以下のコマンドを使用し、**openshift-storage namespace** の空のノードセレクターを指定できます (この場合、**openshift-storage namespace** を作成します)。

```
$ oc annotate namespace openshift-storage openshift.io/node-selector=
```

- ノードに Red Hat OpenShift Data Foundation リソースのみがスケジュールされるように **infra** のテイントを設定します。これにより、サブスクリプションコストを節約できます。詳細は、ストレージリソースの管理および割り当てガイドの [How to use dedicated worker nodes for Red Hat OpenShift Data Foundation](#) の章を参照してください。

手順

1. OpenShift Web コンソールにログインします。

2. **Operators** → **OperatorHub** をクリックします。
3. スクロールするか、または **OpenShift Data Foundation** を **Filter by keyword** ボックスに入力し、**OpenShift Data Foundation Operator** を検索します。
4. **Install** をクリックします。
5. **Install Operator** ページで、以下のオプションを設定します。
 - a. **Channel** を **stable-4.9** として更新します。
 - b. **Installation Mode** オプションに **A specific namespace on the cluster** を選択します。
 - c. **Installed Namespace** に **Operator recommended namespace openshift-storage** を選択します。namespace openshift-storage が存在しない場合、これは Operator のインストール時に作成されます。
 - d. **承認ストラテジー** を **Automatic** または **Manual** として選択します。

Automatic (自動) 更新を選択した場合、**Operator Lifecycle Manager (OLM)** は介入なしに、Operator の実行中のインスタンスを自動的にアップグレードします。

Manual 更新を選択した場合、OLM は更新要求を作成します。クラスター管理者は、Operator を新しいバージョンに更新できるように更新要求を手動で承認する必要があります。
 - e. **Console プラグイン** に **Enable** オプションが選択されていることを確認します。
 - f. **Install** をクリックします。

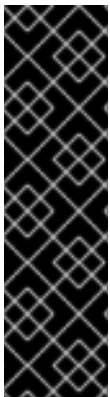


注記

すべてのデフォルト設定を使用することが推奨されます。これを変更すると、予期しない動作が発生する可能性があります。変更後にどうなるのかを認識している場合に限り変更します。

検証手順

- **OpenShift Data Foundation Operator** に、インストールが正常に実行されたことを示す緑色のチェックマークが表示されていることを確認します。
- **Operator** が正常にインストールされると、**Web console update is available** メッセージを含むポップアップがユーザーインターフェースに表示されます。このポップアップから **Web コンソール** のリフレッシュ をクリックして、反映するコンソールを変更します。
- **Web コンソール** で、**Operators** に移動し、**OpenShift Data Foundation** が利用可能かどうかを確認します。



重要

OpenShift Data Foundation Operator のインストール後に **console** プラグインオプションが自動的に有効にされていない場合は、これを有効にする必要があります。

console プラグインを有効にする方法の詳細は、「[Red Hat OpenShift Data Foundation console プラグインの有効化](#)」を参照してください。

3.3. MULTUS ネットワークの作成 [テクノロジープレビュー]

OpenShift Container Platform は、**Multus CNI** プラグインを使用して **CNI** プラグインのチェーンを許可します。クラスターのインストール時に、デフォルトの **Pod** ネットワークを設定できます。デフォルトのネットワークは、クラスターのすべての通常のネットワークトラフィックを処理します。利用可能な **CNI** プラグインに基づいて追加のネットワークを定義し、1つまたは複数のネットワークを **Pod** に割り当てることができます。追加のネットワークを **Pod** に割り当てるには、インターフェースの割り当て方法を定義する設定を作成する必要があります。それぞれのインターフェースは、**NetworkAttachmentDefinition** カスタムリソース (CR) を使用して指定します。それぞれの **NetworkAttachmentDefinition** 内の **CNI** 設定は、インターフェースの作成方法を定義します。

OpenShift Data Foundation は、**macvlan** と呼ばれる **CNI** プラグインを使用します。**macvlan** ベースの追加ネットワークを作成することで、ホスト上の **Pod** が物理ネットワークインターフェースを使

用して他のホストやそれらのホストの Pod と通信できます。macvlan ベースの追加ネットワークに割り当てられる各 Pod には固有の MAC アドレスが割り当てられます。

重要

Multus のサポートはテクノロジープレビュー機能としてのみサポートされ、ベアメタルおよび VMWare デプロイメントでテストされます。テクノロジープレビュー機能は Red Hat の実稼働環境でのサービスレベルアグリーメント (SLA) ではサポートされていないため、Red Hat では実稼働環境での使用を推奨していません。Red Hat は実稼働環境でこれらを使用することを推奨していません。これらの機能は、近々発表予定の製品機能をリリースに先駆けてご提供することにより、お客様は機能性をテストし、開発プロセス中にフィードバックをお寄せいただくことができます。

詳細は、「[テクノロジープレビュー機能のサポート範囲](#)」を参照してください。

3.3.1. ネットワーク接続定義の作成

Multus を使用するには、正しいネットワーク設定ですでに機能するクラスターが必要です。[Recommended network configuration and requirements for a Multus configuration](#)を参照してください。新規に作成された NetworkAttachmentDefinition (NAD) は、Storage Cluster のインストール時に選択できます。これは、Storage Cluster の前に作成する必要のある理由です。

『Planning Guide』で説明されているように、作成する Multus ネットワークは、OpenShift Data Foundation トラフィックで利用可能なネットワークインターフェースの数によって異なります。すべてのストレージトラフィックを 2 つのインターフェース (デフォルトの OpenShift SDN に使用されるインターフェース 1 つ) に分割するか、ストレージストレージトラフィック (パブリック) およびストレージレプリケーショントラフィック (プライベートまたはクラスター) にさらに分割することもできます。

以下は、同じインターフェース上のすべてのストレージトラフィック (パブリックおよびクラスター) の NetworkAttachmentDefinition の例です。すべてのスケジュール可能なノードに 1 つの追加インターフェースが必要になります (OpenShift のデフォルト: 個別のネットワークインターフェース上の OpenShift のデフォルト)。

```
apiVersion: "k8s.cni.cncf.io/v1"
kind: NetworkAttachmentDefinition
metadata:
  name: ocs-public-cluster
  namespace: openshift-storage
spec:
  config: '{
    "cniVersion": "0.3.1",
    "type": "macvlan",
    "master": "ens2",
```

```
"mode": "bridge",
"ipam": {
  "type": "whereabouts",
  "range": "192.168.1.0/24"
}
}'
```



注記

すべてのネットワークインターフェース名は、**Multus** ネットワークに接続されているすべてのノードで同じである必要があります (例: **ocs-public-cluster** の場合は **ens2**)。

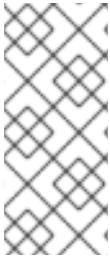
以下は、個別の **Multus** ネットワーク上のストレージトラフィックの **NetworkAttachmentDefinition** の例になります。これは、クライアントストレージトラフィックのパブリックおよびレプリケーショントラフィック用のクラスターです。OSD Pod をホストする OpenShift ノードに 2 つの追加インターフェースと、他のスケジュール可能なすべてのノードで 1 つの追加インターフェース (OpenShift デフォルト SDN) が必要です。

```
apiVersion: "k8s.cni.cncf.io/v1"
kind: NetworkAttachmentDefinition
metadata:
  name: ocs-public
  namespace: openshift-storage
spec:
  config: '{
    "cniVersion": "0.3.1",
    "type": "macvlan",
    "master": "ens2",
    "mode": "bridge",
    "ipam": {
      "type": "whereabouts",
      "range": "192.168.1.0/24"
    }
  }'
```

NetworkAttachmentDefinition の例:

```
apiVersion: "k8s.cni.cncf.io/v1"
kind: NetworkAttachmentDefinition
metadata:
  name: ocs-cluster
  namespace: openshift-storage
spec:
  config: '{
    "cniVersion": "0.3.1",
    "type": "macvlan",
    "master": "ens3",
```

```
"mode": "bridge",
"ipam": {
  "type": "whereabouts",
  "range": "192.168.2.0/24"
}
}'
```



注記

すべてのネットワークインターフェース名は、Multus ネットワークにアタッチされたすべてのノードで同じである必要があります (つまり、ocs-public の場合は ens2、ocs-cluster の場合は ens3 です)。

3.4. VMWARE VSPHERE での OPENSIFT DATA FOUNDATION クラスターの作成

VMware vSphere は、以下の 3 つのタイプのローカルストレージをサポートします。

- 仮想マシンディスク (VMDK)
- raw デバイスマッピング (RDM)
- VMDirectPath I/O

前提条件

- [ローカルストレージデバイスを使用した OpenShift Data Foundation のインストールの要件](#)についてのセクションにあるすべての要件を満たしていることを確認します。
- VMware でローカルストレージデバイスを使用するために、各ノードに同じストレージタイプおよびサイズが割り当てられたワーカーノードが最低でも 3 つ必要です。
- VMware vSphere の仮想マシンでは、disk.EnableUUID オプションが TRUE に設定されていることを確認してください。仮想マシンを設定するには、vCenter アカウントの権限が必要です。詳細は、「[Required vCenter account privileges](#)」を参照してください。disk.EnableUUID オプションを設定するには、Customize hardware タブで VM Options の Advanced オプションを使用します。詳細は、[vSphere での Red Hat Enterprise Linux CoreOS\(RHCOS\)マシンの作成について参照](#)してください。
-

multus サポートのテクノロジープレビュー機能を使用する必要がある場合には、デプロイメントの前に、後でクラスターにアタッチされるネットワーク接続定義 (NAD) を作成する必要があります。詳細は、「[マルチネットワークプラグイン\(Multus\)のサポート](#)」および「[ネットワーク接続定義の作成](#)」を参照してください。

手順

1. OpenShift Web コンソールで、**Operators** → **Installed Operators** をクリックし、インストールされた Operator を表示します。

選択された Project が **openshift-storage** であることを確認します。

2. OpenShift Data Foundation Operator をクリックした後、**Create StorageSystem** をクリックします。

3. **Backing storage** ページで、以下を実行します。

- a. **Create a new StorageClass using the local storage devices** オプションを選択します。
- b. **Advanced** を展開し、**Deployment type** オプションで **Full Deployment** を選択します。
- c. 次へをクリックします。



注記

インストールされていない場合に、ローカルストレージ Operator をインストールすることを求めるプロンプトが出されます。**Install** をクリックし、「[ローカルストレージ Operator のインストール](#)」で説明されているように手順に従います。

4. **Create local volume set** ページで、以下の情報を提供します。

- a. **LocalVolumeSet** および **StorageClass** の名前を入力します。

デフォルトで、ローカルボリュームセット名がストレージクラス名について表示されます。名前を変更できます。

b.

以下のいずれかを選択します。

- **Disks on all nodes:** すべてのノードにある選択したフィルターに一致する利用可能なディスクを使用します。
- **Disks on selected nodes:** 選択したノードにある選択したフィルターに一致する利用可能なディスクを使用します。



重要

- 柔軟なスケーリング機能は、3つ以上のノードで作成したストレージクラスターが3つ以上のアベイラビリティゾーンの最低要件未満に分散されている場合にのみ有効になります。

柔軟なスケーリングについての詳細は、ストレージのスケーリングガイドの [Add capacity using YAML](#) セクションを参照してください。

- 選択したノードが集約された 30 CPU および 72 GiB の RAM の OpenShift Data Foundation クラスターの要件と一致しない場合は、最小クラスターがデプロイされます。

ノードの最小要件については、『プランニング』ガイドの [「リソース要件」](#) セクションを参照してください。

c.

Disk Type の利用可能な一覧から、**SSD/NVMe** を選択します。

d.

Advanced セクションを拡張し、以下のオプションを設定します。

ボリュームモード	デフォルトではブロックが選択されます。
デバイスタイプ	ドロップダウンリストから1つ以上のデバイスタイプを選択します。

ディスクサイズ	デバイスの最小サイズ 100GB と、含める必要のあるデバイスの最大サイズを設定します。
ディスクの最大数の制限	これは、ノードで作成できる PV の最大数を示します。このフィールドが空のままの場合、PV は一致するノードで利用可能なすべてのディスクに作成されます。

e.

Next をクリックします。

LocalVolumeSet の作成を確認するポップアップが表示されます。

f.

Yes をクリックして続行します。

5.

Capacity and nodes ページで、以下を設定します。

a.

Available raw capacity には、ストレージクラスに関連付けられた割り当てられたすべてのディスクに基づいて容量の値が設定されます。これには少し時間がかかります。**Selected nodes** 一覧には、ストレージクラスに基づくノードが表示されます。

b.

Next をクリックします。

6.

オプション：セキュリティ および ネットワーク ページで、要件に応じて以下を設定します。

a.

暗号化を有効にするには、**Enable data encryption for block and file storage** を選択します。

b.

以下の **Encryption level**（暗号化レベル）のいずれかを選択します。

●

クラスター全体の暗号化 - クラスター全体（ブロックおよびファイル）を暗号化します。

●

StorageClass encryption: 暗号化対応のストレージクラスを使用して暗号化された永続ボリューム（ブロックのみ）を作成します。

- c. **Connect to an external key management service** チェックボックスを選択します。これはクラスター全体の暗号化の場合はオプションになります。
- i. **Key Management Service Provider** はデフォルトで **Vault** に設定されます。
 - ii. **Vault Service Name**、Vault サーバーのホスト **Address** ('https://<hostname or ip>')、**Port** 番号および **Token** を入力します。
 - iii. **Advanced Settings** を展開して、Vault 設定に基づいて追加の設定および証明書の詳細を入力します。
 - A. **OpenShift Data Foundation** 専用かつ特有のキー値のシークレットパスを **Backend Path** に入力します。
 - B. オプション: **TLS Server Name** および **Vault Enterprise Namespace** を入力します。
 - C. それぞれの PEM でエンコードされた証明書 ファイルをアップロードして、**CA Certificate**、**Client Certificate**、および **Client Private Key** を指定します。
 - D. **保存** をクリックします。
- d. 以下のいずれかを選択します。
- 単一のネットワークを使用している場合は、**Default (SDN)** を選択します。
 - 複数のネットワークインターフェースを使用している場合は、**Custom (Multus)** を選択します。
 - i. ドロップダウンメニューから **Public Network Interface** を選択します。
 - ..

ii.

ドロップダウンメニューから **Cluster Network Interface** を選択します。



注記

追加のネットワークインターフェイスを1つだけ使用している場合は、単一のNetworkAttachementDefinition (**Public Network Interface**にはocs-public-cluster) を選択し、Cluster Network Interfaceは空白のままにします。

e.

Next をクリックします。

7.

Review and create ページで、設定の詳細を確認します。

•

設定を変更するには、**Back** をクリックして以前の設定ページに戻ります。

8.

Create StorageSystem をクリックします。

検証手順

•

インストールされたストレージクラスターの最終ステータスを確認するには、以下を実行します。

a.

OpenShift Web コンソールで、**Installed Operators** → **OpenShift Data Foundation** → **Storage System** → **ocs-storagecluster-storagesystem** → **Resources** の順に移動します。

b.

StorageCluster の **Status** が **Ready** になっており、その横に緑色のチェックマークが表示されていることを確認します。

•

柔軟なスケーリングがストレージクラスターで有効にされているかどうかを確認するには、以下の手順を実行します (arbiter モードの場合、柔軟なスケーリングが無効になります)。

1.

OpenShift Web コンソールで、**Installed Operators** → **OpenShift Data Foundation** → **Storage System** → **ocs-storagecluster-storagesystem** → **Resources** の順に移動しま

す。

2.

YAML タブで、spec セクションのキー `flexibleScaling` と status セクションの `flexibleScaling` を検索します。`flexible scaling` が `true` であり、`failureDomain` が `host` に設定されている場合、柔軟なスケーリング機能が有効になります。

```
spec:
  flexibleScaling: true
  [...]
status:
  failureDomain: host
```

- OpenShift Data Foundation のすべてのコンポーネントが正常にインストールされていることを確認するには、[Verifying your OpenShift Data Foundation deployment](#) を参照してください。
- マルチネットワーク (Multus) を確認するには、[Verifying the Multus networking](#) を参照してください。

関連情報

- 初期クラスターの容量を拡張するには、『[Scaling Storage](#)』ガイドを参照してください。

第4章 OPENSIFT DATA FOUNDATION デプロイメントの確認

このセクションを使用して、OpenShift Data Foundation が正しくデプロイされていることを確認します。

4.1. POD の状態の確認

手順

1. OpenShift Web コンソールから **Workloads** → **Pods** をクリックします。
2. **Project** ドロップダウンリストから **openshift-storage** を選択します。



注記

Show default projects オプションが無効になっている場合は、切り替えボタンを使用して、すべてのデフォルトプロジェクトを一覧表示します。

各コンポーネントについて予想される Pod 数や、これがノード数によってどのように異なるかの詳細は、[表4.1「OpenShift Data Foundation クラスターに対応する Pod」](#) を参照してください。

3. **Running** タブおよび **Completed** タブをクリックして、以下の Pod が **Running** 状態および **Completed** 状態にあることを確認します。

表4.1 OpenShift Data Foundation クラスターに対応する Pod

コンポーネント	対応する Pod
OpenShift Data Foundation Operator	<ul style="list-style-type: none"> ● ocs-operator-* (任意のワーカーノードに 1 Pod) ● ocs-metrics-exporter-* (任意のワーカーノードに 1 Pod) ● odf-operator-controller-manager-* (任意のワーカーノードに 1 Pod) ● odf-console-* (任意のワーカーノードに 1 Pod)

コンポーネント	対応する Pod
Rook-ceph Operator	rook-ceph-operator-* (任意のワーカーノードに 1Pod)
Multicloud Object Gateway	<ul style="list-style-type: none"> ● noobaa-operator-* (任意のワーカーノードに 1Pod) ● noobaa-core-* (任意のストレージノードに 1Pod) ● noobaa-db-pg-* (任意のストレージノードに 1Pod) ● noobaa-endpoint-* (任意のストレージノードに 1Pod)
[MON]	rook-ceph-mon-* (ストレージノードに分散する 3 Pod)
MGR	rook-ceph-mgr-* (任意のストレージノードに 1Pod)
MDS	rook-ceph-mds-ocs-storagecluster-cephfilesystem-* (ストレージノードに分散する 2 Pod)
RGW	rook-ceph-rgw-ocs-storagecluster-cephobjectstore-* (任意のストレージノードに 1Pod)
CSI	<ul style="list-style-type: none"> ● cephfs <ul style="list-style-type: none"> ○ csi-cephfsplugin-* (各ワーカーノードに 1Pod) ○ csi-cephfsplugin-provisioner-* (ワーカーノードに分散する 2 Pod) ● rbd <ul style="list-style-type: none"> ○ csi-rbdplugin-* (各ワーカーノードに 1Pod) ○ csi-rbdplugin-provisioner-* (ストレージノードに分散する 2 Pod)

コンポーネント	対応する Pod
rook-ceph-crashcollector	rook-ceph-crashcollector-* (各ストレージノードに1Pod)
OSD	<ul style="list-style-type: none"> ● rook-ceph-osd-* (各デバイス用に1Pod) ● rook-ceph-osd-prepare-ocs-deviceset-* (各デバイス用に1Pod)

4.2. OPENSIFT DATA FOUNDATION クラスターの正常性の確認

手順

1. OpenShift Web コンソールで、**Storage** → **OpenShift Data Foundation** をクリックします。
2. **Overview** タブの **Status** カードで **Storage System** をクリックし、表示されたポップアップからストレージシステムリンクをクリックします。
3. **Block and File** タブの **Status** カードで、**Storage Cluster** に緑色のチェックマークが表示されていることを確認します。
4. **Details** カードで、クラスター情報が表示されていることを確認します。

ブロックおよびファイルダッシュボードを使用した OpenShift Data Foundation クラスターの正常性については、「[Monitoring OpenShift Data Foundation](#)」を参照してください。

4.3. MULTICLOUD OBJECT GATEWAY が正常であることの確認

手順

1. OpenShift Web コンソールで、**Storage** → **OpenShift Data Foundation** をクリックします。
2. **Overview** タブの **Status** カードで **Storage System** をクリックし、表示されたポップアップからストレージシステムリンクをクリックします。

- a. Object タブの Status カードで、Object Service と Data Resiliency の両方に緑色のチェックマークが表示されていることを確認します。
- b. Details カードで、MCG 情報が表示されることを確認します。

オブジェクトサービスダッシュボードを使用した OpenShift Data Foundation クラスターの正常性については、「[Monitoring OpenShift Data Foundation](#)」を参照してください。

4.4. OPENSIFT DATA FOUNDATION 固有のストレージクラスが存在することの確認

手順

1. OpenShift Web コンソールの左側のペインから Storage → Storage Classes をクリックします。
2. 以下のストレージクラスが OpenShift Data Foundation クラスターの作成時に作成されることを確認します。
 - ocs-storagecluster-ceph-rbd
 - ocs-storagecluster-cephfs
 - openshift-storage.noobaa.io
 - ocs-storagecluster-ceph-rgw

4.5. MULTUS ネットワークの確認

Multus がクラスターで機能しているかどうかを判別するには、Multus ネットワークを確認します。

手順

ネットワーク設定の選択に応じて、OpenShift Data Foundation Operator は以下の 1 つを行います。

- 単一の NetworkAttachmentDefinition (例 : ocs-public-cluster) のみが Public Network Interface に対して選択される場合、アプリケーション Pod と OpenShift Data Foundation クラスタ間のトラフィックはこのネットワークで生じます。さらに、クラスタは、このネットワークを OSD 間のレプリケーションに使用し、OSD 間のトラフィックを再リバランスするように自己設定します。
- NetworkAttachmentDefinitions (例 : ocs-public および ocs-cluster) が Public Network Interface にそれぞれ選択されており、Storage Cluster のインストール時に Cluster Network Interface にそれぞれ選択される場合、クライアントストレージトラフィックは OSD 間でのレプリケーションおよびクラスタネットワークについてパブリックネットワークおよびクラスタネットワークに置かれます。

ネットワーク構成が正しいことを確認するには、以下の手順を実施します。

OpenShift コンソールで、Installed Operators → OpenShift Data Foundation → Storage System → ocs-storagecluster-storagesystem → Resources → ocs-storagecluster の順に移動します。

YAML タブで、spec セクションで network を検索し、設定がネットワークインターフェースの選択に適したことを確認します。この例では、クライアントストレージトラフィックをストレージレプリケーショントラフィックから分離するためのものです。

出力サンプル

```
[..]
spec:
  [..]
  network:
    ipFamily: IPv4
    provider: multus
    selectors:
      cluster: openshift-storage/ocs-cluster
      public: openshift-storage/ocs-public
  [..]
```

コマンドラインインターフェースを使用してネットワーク設定が正しいことを確認するには、以下のコマンドを実行します。

```
$ oc get storagecluster ocs-storagecluster \
-n openshift-storage \
-o=jsonpath='{.spec.network}'
```

出力サンプル

```
{"ipFamily":"IPv4","provider":"multus","selectors":{"cluster":"openshift-storage/ocs-cluster"},"public":"openshift-storage/ocs-public"}}
```

OSD Pod が正しいネットワークを使用していることを確認します

openshift-storage namespace は **OSD Pod** の 1 つを使用して、**Pod** が正しいネットワークに接続されていることを確認します。この例では、クライアントストレージトラフィックをストレージレプリケーショントラフィックから分離するためのものです。



注記

両方が作成されると、**OSD Pod** のみが **Multus** パブリックおよびクラスターネットワークの両方に接続します。他のすべての **OCS Pod** は **Multus** パブリックネットワークに接続されます。

```
$ oc get -n openshift-storage $(oc get pods -n openshift-storage -o name -l app=rook-ceph-osd | grep 'osd-0') -o=jsonpath='{.metadata.annotations.k8s\.v1\.cni\.cncf\.io/network-status}'
```

出力サンプル

```
[{
  "name": "openshift-sdn",
  "interface": "eth0",
  "ips": [
    "10.129.2.30"
  ],
  "default": true,
  "dns": {}
},{
  "name": "openshift-storage/ocs-cluster",
  "interface": "net1",
  "ips": [
    "192.168.2.1"
  ],
  "mac": "e2:04:c6:81:52:f1",
  "dns": {}
},{
  "name": "openshift-storage/ocs-public",
```

```
"interface": "net2",
"ips": [
  "192.168.1.1"
],
"mac": "ee:a0:b6:a4:07:94",
"dns": {}
}]
```

コマンドラインインターフェースを使用して **OSD Pod** が正しいネットワークを使用していることを確認するには、以下のコマンドを実行します（jq ユーティリティが必要です）。

```
$ oc get -n openshift-storage $(oc get pods -n openshift-storage -o name -l app=rook-ceph-osd | grep
'osd-0') -o=jsonpath='{.metadata.annotations.k8s\.v1\.cni\.cncf\.io/network-status}{"\n"}' | jq -r '.
[.name]'
```

出力サンプル

```
openshift-sdn
openshift-storage/ocs-cluster
openshift-storage/ocs-public
```


第5章 スタンドアロンの MULTICLOUD OBJECT GATEWAY のデプロイ

OpenShift Data Foundation で Multicloud Object Gateway コンポーネントのみをデプロイすると、デプロイメントで柔軟性が高まり、リソース消費を減らすことができます。Multicloud Object Gateway コンポーネントは、動的ストレージデバイスを使用するか、ローカルストレージデバイスを使用してデプロイできます。

5.1. 動的ストレージデバイスを使用したスタンドアロン MULTICLOUD OBJECT GATEWAY のデプロイ

このセクションでは、以下のステップで、スタンドアロンの Multicloud Object Gateway コンポーネントのみをデプロイします。

- Red Hat OpenShift Data Foundation Operator のインストール
- スタンドアロンの Multicloud Object Gateway の作成

5.1.1. Red Hat OpenShift Data Foundation Operator のインストール

Red Hat OpenShift Data Foundation Operator は、Red Hat OpenShift Container Platform Operator Hub を使用してインストールできます。

前提条件

- cluster-admin および Operator インストールのパーミッションを持つアカウントを使用して OpenShift Container Platform クラスターにアクセスできる。
- Red Hat OpenShift Container Platform クラスターにワーカーノードが少なくとも 3 つある。
- その他のリソース要件については、『[デプロイメントのプランニング](#)』ガイドを参照してください。



重要

- OpenShift Data Foundation のクラスター全体でのデフォルトノードセレクターを上書きする必要がある場合は、コマンドラインインターフェースで以下のコマンドを使用し、`openshift-storage namespace` の空のノードセレクターを指定できます (この場合、`openshift-storage namespace` を作成します)。

```
$ oc annotate namespace openshift-storage openshift.io/node-selector=
```

- ノードに Red Hat OpenShift Data Foundation リソースのみがスケジュールされるように `infra` のテイントを設定します。これにより、サブスクリプションコストを節約できます。詳細は、ストレージリソースの管理および割り当てガイドの [How to use dedicated worker nodes for Red Hat OpenShift Data Foundation](#) の章を参照してください。

手順

1. OpenShift Web コンソールにログインします。
2. Operators → OperatorHub をクリックします。
3. スクロールするか、または OpenShift Data Foundation を Filter by keyword ボックスに入力し、OpenShift Data Foundation Operator を検索します。
4. Install をクリックします。
5. Install Operator ページで、以下のオプションを設定します。
 - a. Channel を `stable-4.9` として更新します。
 - b. Installation Mode オプションに `A specific namespace on the cluster` を選択します。
 - c. Installed Namespace に `Operator recommended namespace openshift-storage` を選択します。namespace `openshift-storage` が存在しない場合、これは Operator のインストール時に作成されます。

- d. 承認ストラテジーを **Automatic** または **Manual** として選択します。

Automatic (自動) 更新を選択した場合、**Operator Lifecycle Manager (OLM)** は介入なしに、**Operator** の実行中のインスタンスを自動的にアップグレードします。

Manual 更新を選択した場合、**OLM** は更新要求を作成します。クラスター管理者は、**Operator** を新しいバージョンに更新できるように更新要求を手動で承認する必要があります。

- e. **Console** プラグインに **Enable** オプションが選択されていることを確認します。

- f. **Install** をクリックします。

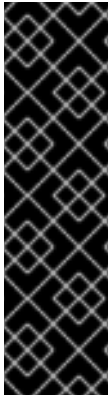


注記

すべてのデフォルト設定を使用することが推奨されます。これを変更すると、予期しない動作が発生する可能性があります。変更後にどうなるのかを認識している場合に限り変更します。

検証手順

- **OpenShift Data Foundation Operator** に、インストールが正常に実行されたことを示す緑色のチェックマークが表示されていることを確認します。
- **Operator** が正常にインストールされると、**Web console update is available** メッセージを含むポップアップがユーザーインターフェースに表示されます。このポップアップから **Web コンソール** のリフレッシュ をクリックして、反映するコンソールを変更します。
- **Web** コンソールで、**Operators** に移動し、**OpenShift Data Foundation** が利用可能かどうかを確認します。



重要

OpenShift Data Foundation Operator のインストール後に console プラグインオプションが自動的に有効にされていない場合は、これを有効にする必要があります。

console プラグインを有効にする方法の詳細は、「[Red Hat OpenShift Data Foundation console プラグインの有効化](#)」を参照してください。

5.1.2. スタンドアロンの Multicloud Object Gateway の作成

このセクションを使用して、OpenShift Data Foundation で Multicloud Object Gateway コンポーネントのみを作成します。

前提条件

- OpenShift Data Foundation Operator がインストールされていることを確認します。
- (ローカルストレージデバイスを使用したデプロイのみ) Local Storage Operator がインストールされていることを確認します。
- ストレージクラスがあり、これがデフォルトとして設定されていることを確認します。

手順

1. OpenShift Web コンソールで、Operators → Installed Operators をクリックし、インストールされた Operator を表示します。

選択された Project が `openshift-storage` であることを確認します。
2. OpenShift Data Foundation Operator をクリックした後、Create StorageSystem をクリックします。
3. Backing storage ページで、Advanced を展開します。
4. Deployment type の Multicloud Object Gateway を選択します。

5. **Next** をクリックします。
6. 必要に応じて、**Security** ページで **Connect to an external key management service** を選択します。
 - a. **Key Management Service Provider** はデフォルトで **Vault** に設定されます。
 - b. **Vault Service Name**、**Vault** サーバーのホスト **Address** ('https://<hostname or ip>')、**Port number** および **Token** を入力します。
 - c. **Advanced Settings** を展開して、**Vault** 設定に基づいて追加の設定および証明書の詳細を入力します。
 - i. **OpenShift Data Foundation** 専用で固有のキーバリュースークレットパスを **Backend Path** に入力します。
 - ii. オプション： **TLS Server Name** および **Vault Enterprise Namespace** を入力します。
 - iii. それぞれの **PEM** でエンコードされた証明書ファイルをアップロードし、**CA 証明書**、**クライアント証明書**、および **クライアントの秘密鍵** を提供します。
 - iv. **保存** をクリックします。
 - d. **Next** をクリックします。
7. **Review and create** ページで、設定の詳細を確認します。

構成設定を変更するには、**Back** をクリックします。
8. **Create StorageSystem** をクリックします。

検証手順

OpenShift Data Foundation クラスターが正常であることの確認

1. **OpenShift Web コンソール**で、**Storage** → **OpenShift Data Foundation** をクリックします。
2. **Overview** タブの **Status** カードで **Storage System** をクリックし、表示されたポップアップからストレージシステムリンクをクリックします。
 - a. **Object** タブの **Status** カードで、**Object Service** と **Data Resiliency** の両方に緑色のチェックマークが表示されていることを確認します。
 - b. **Details** カードで、**MCG** 情報が表示されることを確認します。

Pod の状態を確認します。

1. **OpenShift Web コンソール**から **Workloads** → **Pods** をクリックします。
2. **Project** ドロップダウンリストから **openshift-storage** を選択し、以下の Pod が **Running** 状態にあることを確認します。



注記

Show default projects オプションが無効になっている場合は、切り替えボタンを使用して、すべてのデフォルトプロジェクトを一覧表示します。

コンポーネント	対応する Pod
OpenShift Data Foundation Operator	<ul style="list-style-type: none"> ● ocs-operator-* (任意のワーカーノードに 1Pod) ● ocs-metrics-exporter-* (任意のワーカーノードに 1Pod) ● odf-operator-controller-manager-* (任意のワーカーノードに 1Pod) ● odf-console-* (任意のワーカーノードに 1Pod)

コンポーネント	対応する Pod
Rook-ceph Operator	rook-ceph-operator-* (任意のワーカーノードに 1Pod)
Multicloud Object Gateway	<ul style="list-style-type: none"> ● noobaa-operator-* (任意のワーカーノードに 1Pod) ● noobaa-core-* (任意のワーカーノードに 1Pod) ● noobaa-db-pg-* (任意のワーカーノードに 1Pod) ● noobaa-endpoint-* (任意のワーカーノードに 1Pod)

5.2. ローカルストレージデバイスを使用したスタンドアロン MULTICLOUD OBJECT GATEWAY のデプロイ

このセクションでは、以下のステップで、スタンドアロンの Multicloud Object Gateway コンポーネントのみをデプロイします。

- ローカルストレージ Operator のインストール
- Red Hat OpenShift Data Foundation Operator のインストール
- スタンドアロンの Multicloud Object Gateway の作成

5.2.1. ローカルストレージ Operator のインストール

ローカルストレージデバイスに Red Hat OpenShift Data Foundation クラスタを作成する前に、Operator Hub からローカルストレージ Operator をインストールします。

手順

1. OpenShift Web コンソールにログインします。
2. Operators → OperatorHub をクリックします。

3. **Filter by keyword** ボックスに **local storage** を入力し、**Operator** の一覧から **Local Storage Operator** を見つけ、これをクリックします。
4. **Install Operator** ページで、以下のオプションを設定します。
 - a. **channel** を **ana** または **stable** として更新します。
 - b. インストールモードに **A specific namespace on the cluster** を選択します。
 - c. **Installed Namespace** に **Operator recommended namespace openshift-local-storage** を選択します。
 - d. 承認を **Automatic** として更新します。
5. **Install** をクリックします。

検証手順

- **Local Storage Operator** に、インストールが正常に実行されたことを示す緑色のチェックマークが表示されていることを確認します。

5.2.2. Red Hat OpenShift Data Foundation Operator のインストール

Red Hat OpenShift Data Foundation Operator は、**Red Hat OpenShift Container Platform Operator Hub** を使用してインストールできます。

前提条件

- **cluster-admin** および **Operator** インストールのパーミッションを持つアカウントを使用して **OpenShift Container Platform** クラスタにアクセスできる。
- **Red Hat OpenShift Container Platform** クラスタにワーカーノードが少なくとも 3 つある。

- その他のリソース要件については、『[デプロイメントのプランニング](#)』ガイドを参照してください。



重要

- OpenShift Data Foundation のクラスター全体でのデフォルトノードセレクターを上書きする必要がある場合は、コマンドラインインターフェースで以下のコマンドを使用し、`openshift-storage namespace` の空のノードセレクターを指定できます (この場合、`openshift-storage namespace` を作成します)。

```
$ oc annotate namespace openshift-storage openshift.io/node-selector=
```

- ノードに Red Hat OpenShift Data Foundation リソースのみがスケジュールされるように `infra` のテイントを設定します。これにより、サブスクリプションコストを節約できます。詳細は、ストレージリソースの管理および割り当てガイドの [How to use dedicated worker nodes for Red Hat OpenShift Data Foundation](#) の章を参照してください。

手順

1. OpenShift Web コンソールにログインします。
2. Operators → OperatorHub をクリックします。
3. スクロールするか、または OpenShift Data Foundation を Filter by keyword ボックスに入力し、OpenShift Data Foundation Operator を検索します。
4. Install をクリックします。
5. Install Operator ページで、以下のオプションを設定します。
 - a. Channel を `stable-4.9` として更新します。
 - b. Installation Mode オプションに `A specific namespace on the cluster` を選択します。

- c. **Installed Namespace** に **Operator recommended namespace openshift-storage** を選択します。**namespace openshift-storage** が存在しない場合、これは **Operator** のインストール時に作成されます。
- d. **承認ストラテジー** を **Automatic** または **Manual** として選択します。
- Automatic (自動) 更新** を選択した場合、**Operator Lifecycle Manager (OLM)** は介入なしに、**Operator** の実行中のインスタンスを自動的にアップグレードします。
- Manual 更新** を選択した場合、**OLM** は更新要求を作成します。クラスター管理者は、**Operator** を新しいバージョンに更新できるように更新要求を手動で承認する必要があります。
- e. **Console プラグイン** に **Enable オプション** が選択されていることを確認します。
- f. **Install** をクリックします。



注記

すべてのデフォルト設定を使用することが推奨されます。これを変更すると、予期しない動作が発生する可能性があります。変更後にどうなるのかを認識している場合に限り変更します。

検証手順

- **OpenShift Data Foundation Operator** に、インストールが正常に実行されたことを示す緑色のチェックマークが表示されていることを確認します。
- **Operator** が正常にインストールされると、**Web console update is available** メッセージを含むポップアップがユーザーインターフェースに表示されます。このポップアップから **Web コンソールのリフレッシュ** をクリックして、反映するコンソールを変更します。
- **Web コンソール** で、**Operators** に移動し、**OpenShift Data Foundation** が利用可能かどうかを確認します。



重要

OpenShift Data Foundation Operator のインストール後に console プラグインオプションが自動的に有効にされていない場合は、これを有効にする必要があります。

console プラグインを有効にする方法の詳細は、「[Red Hat OpenShift Data Foundation console プラグインの有効化](#)」を参照してください。

5.2.3. スタンドアロンの Multicloud Object Gateway の作成

このセクションを使用して、OpenShift Data Foundation で Multicloud Object Gateway コンポーネントのみを作成します。

前提条件

- OpenShift Data Foundation Operator がインストールされていることを確認します。
- (ローカルストレージデバイスを使用したデプロイのみ) Local Storage Operator がインストールされていることを確認します。
- ストレージクラスがあり、これがデフォルトとして設定されていることを確認します。

手順

1. OpenShift Web コンソールで、Operators → Installed Operators をクリックし、インストールされた Operator を表示します。

選択された Project が `openshift-storage` であることを確認します。
2. OpenShift Data Foundation Operator をクリックした後、Create StorageSystem をクリックします。
3. Backing storage ページで、Advanced を展開します。
4. Deployment type の Multicloud Object Gateway を選択します。

5. **Next** をクリックします。
6. 必要に応じて、**Security** ページで **Connect to an external key management service** を選択します。
 - a. **Key Management Service Provider** はデフォルトで **Vault** に設定されます。
 - b. **Vault Service Name**、Vault サーバーのホスト **Address** ('https://<hostname or ip>')、**Port number** および **Token** を入力します。
 - c. **Advanced Settings** を展開して、Vault 設定に基づいて追加の設定および証明書の詳細を入力します。
 - i. **OpenShift Data Foundation** 専用で固有のキーバリュースークレットパスを **Backend Path** に入力します。
 - ii. オプション: **TLS Server Name** および **Vault Enterprise Namespace** を入力します。
 - iii. それぞれの **PEM** でエンコードされた証明書ファイルをアップロードし、**CA 証明書**、**クライアント証明書**、および **クライアントの秘密鍵** を提供します。
 - iv. **保存** をクリックします。
 - d. **Next** をクリックします。
7. **Review and create** ページで、設定の詳細を確認します。

構成設定を変更するには、**Back** をクリックします。
8. **Create StorageSystem** をクリックします。

検証手順

OpenShift Data Foundation クラスタが正常であることの確認

1. **OpenShift Web コンソールで、Storage → OpenShift Data Foundation をクリック** します。
2. **Overview タブの Status カードで Storage System をクリックし、表示されたポップアップからストレージシステムリンクをクリック** します。
 - a. **Object タブの Status カードで、Object Service と Data Resiliency の両方に緑色のチェックマークが表示されていることを確認** します。
 - b. **Details カードで、MCG 情報が表示されることを確認** します。

Pod の状態を確認 します。

1. **OpenShift Web コンソールから Workloads → Pods をクリック** します。
2. **Project ドロップダウンリストから openshift-storage を選択し、以下の Pod が Running 状態にあることを確認** します。



注記

Show default projects オプションが無効になっている場合は、切り替えボタンを使用して、すべてのデフォルトプロジェクトを一覧表示

コンポーネント	対応する Pod
OpenShift Data Foundation Operator	<ul style="list-style-type: none"> ● ocs-operator-* (任意のワーカーノードに 1Pod) ● ocs-metrics-exporter-* (任意のワーカーノードに 1Pod) ● odf-operator-controller-manager-* (任意のワーカーノードに 1Pod) ● odf-console-* (任意のワーカーノードに 1Pod)

コンポーネント	対応する Pod
Rook-ceph Operator	rook-ceph-operator-* (任意のワーカーノードに1Pod)
Multicloud Object Gateway	<ul style="list-style-type: none">● noobaa-operator-* (任意のワーカーノードに1Pod)● noobaa-core-* (任意のワーカーノードに1Pod)● noobaa-db-pg-* (任意のワーカーノードに1Pod)● noobaa-endpoint-* (任意のワーカーノードに1Pod)

第6章 OPENSIFT DATA FOUNDATION のアンインストール

6.1. 内部モードでの OPENSIFT DATA FOUNDATION のアンインストール

OpenShift Data Foundation を Internal モードでアンインストールするには、[knowledge base article on Uninstalling OpenShift Data Foundation](#) を参照してください。